

## 平成31年度1学期始業式式辞

H31.4.8(月)

みなさん、おはようございます。4月に入っても少し肌寒い日々が続きましたが、ようやく春らしい陽気になってきました。桜のつぼみも膨らんで、季節が確実に移り変わっています。

4月1日には、新たな元号・令和(れいわ)が発表されました。これは万葉集から引用したもので、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められているとのこと。この「令和の時代」が「平和で、幸多き時代」となることを心から願ってやみません。

さて、今日は、新年度のスタートの日です。皆さんにとっても一つずつ学年が進級し、希望を胸に今日を迎えていることと思います。3月の修了式では、「一年間でどのくらい成長したかを、自分で評価してほしい」ということ。そして、「今、何をすべきかを考え、目標を持ち、行動に移すこと」について話をしましたが、覚えているでしょうか。

始業式にあたり、平成31年度・令和元年度をどんな1年にしたいのか、各自もう一度考え、初心にかえって、決意を新たにしてもらいたいと思います。漠然として・・・「やるぞ」ではなく、「今年は、ここをこうやるぞ」と具体的な形で考えてみましょう。そのためには、自分の具体的な目標を設定することが大切です。そして、目標達成のために努力することです。

日米で通算28年間プレーし、先日、現役を引退したイチロー選手は、日米通算4367安打、10年連続200本安打、メジャーリーグのシーズン最多安打記録・更新など、前人未踏の記録を数々と打ち立て、野球界で輝かしい実績を残しました。しかし、彼は、それらを「ほんのチッポケなことに過ぎない」といつも言い切っています。その言葉どおり、どんな栄冠を得ても現状に満足することなく、常に、次の更なる高み(目標)

を目指して、地道な挑戦を重ねてきました。そして、イチロー選手は、「その積み重ねこそが、とてつもない(とんでもない)記録にたどり着く、ただひとつの道である」と努力の大切さや努力を続けることの大切さを語っています。したがって、漫然と過ぎていく日常には、努力するエネルギーは生まれてきません。現状を認識し、明確な目標の設定があってこそ、はじめて努力しようとする意欲が沸き起こってくるのです。

また、手の届くところにあるものは、目標ではありません。少しでも高いところに目標を置き、そして、その目標のために考え、行動に移すことです。例えば、ステージに掲げてある国旗が目標だとします。簡単には届きません。どうすればあの国旗(目標)に届くかを考えてください。膝を曲げてジャンプすれば届くかも・・・、助走してジャンプすれば届くかも・・・、と考えるのです。それでも届かないときは、土台全体が底上げとなるようにしっかりトレーニングして、時間をかけて力(筋力・跳躍力など)をつけていきます。これが学びです。目標達成と成果につなげるには努力することが必要です。新年度がスタートした今、決意を新たにし、具体的な目標への取り組みによって、達成感・成就感を手に入れることを期待いたします。

最後に、先日の職員会議で先生方にも話をしたことです。それは「チーム明新館」です。今日の午後には240名の新しい仲間が入学してきます。全校生が758名になります。先生方全員を含めれば、830名ほどになります。この大きな力を結集して、同じベクトルで、学校行事はじめ様々な活動を大いに盛り上げ、活気ある上山明新館高校にしていきましょう。

間もなく「平成の時代」から「令和の時代」へとバトンが渡り、新しい時代の幕開けとなります。歴史に残るこの1年が、皆さん一人ひとりにとって、そして、上山明新館高校にとって、充実した1年となることを期待して、式辞とします。

平成三十一年 四月八日

山形県立上山明新館高等学校長 阿部 孝